

「開倫塾の発展と教育メソッド、今後へのビジョン」について

開倫塾

塾長 林 明夫

Q1：創業45周年を迎え、開倫塾が現在のように発展を遂げられた一番の要因についてどのように見えていますか。

A：1979年10月に栃木県足利市百頭町で創業させて頂いた開倫塾は、

- (1)顧客として「定義」させて頂いている「塾生、保護者、地域社会」の皆様、
- (2)「教材会社」「印刷会社」「AO会社」「家主様」「地主様」「金融機関の皆様」「顧問弁護士・会計士・社会保険労務士・コンサルタントの先生方」など、「ビジネスパートナー」としてお世話になっている皆様、
- (3)そして、時間講師、事務スタッフをはじめとするすべての先生方、社員の皆様、
- (4)励まし合いながら、御指導頂いている、同業他社の先生方、異業種の皆様、
○以上の皆様の御理解・御支援・御協力・御尽力のお陰で、今日に至ることができたものと考え、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

Q2：開倫塾の教育メソッド、指導システムの特長についてどのようにお考えですか。

A：(1)開倫塾では、「教育のメイン・ストリームは学校教育である。学習塾は、学校教育を補うものである」と基本的に考え、学校での教育を最重要なものと考えます。「学校教育の不足するところを補わせて頂く」のであれば、少しずつかもしれませんが、徹底的に補わせて頂きたいとの思いで、次の4つの教育目標を掲げております。

(2)〈開倫塾教育目標〉

- ①「高い倫理」
- ②「高い学力」
- ③「高い国際理解」
- ④「自己学習能力の育成」

(3)「高い倫理」を実行に移すために開倫塾では、「価値（大切さ）」「意味（意味付け）」「秩序」の行動基準を高く掲げています。

- ①ものごとを行うときは、その「価値（大切さ）」を自分の力で認識
- ②自分にとっての意味を考え、自分の力で「意味付ける」
- ③今やらなければならないことを自分で考え、決める（自己決定）。自分で決めたルールに基づき「秩序」ある行動を推奨しています。「自律的に行動する能力」を重視してい

ます。

(4)開倫塾では「学力」を「自覚をもって学ぶ力」「自分から進んで学ぶ力」「主体的に学ぶ力」と考え、「自己学習能力の育成」「効果の上がる学習方法」として、「学習の3段階理論」を提唱。

最近では、「予習」「授業」「復習」に励み、「学んだことを自分のことばでいえる（表現・説明できる）」ことを全塾生で目指しています。

(5)開倫塾では、「教育の成果を決定する要因」は、「本人の自覚」と「先生の力量」の2つと考えます。「本人の自覚を促すこと」は、「先生としての力量に含まれる」、「自覚を促す」ことが「塾生の潜在能力」を引き伸ばすことにつながると考えます。

(6)①開倫塾で教えるすべての先生は、授業ごとに「授業の設計図」である「レッシンプラン」を練り上げ、「レッシンプランに基づいた指導」を心掛け、「自分なりの教え方日本一」を目指しています。

②この実現のために、毎年5月の最終日曜日には、白鷺大学足利高校様などをお借りして、「チョーク一本で教育改革を！」を合言葉に、「教え方日本一」を競う「全国模擬授業大会」を開催させて頂いております。(2024年度は第17回目の大会でした)

③また、毎年10月最終日曜日には、愛知県野田塾様が主催なさる「全国模擬授業大会 IN 名古屋」に開倫塾代表チームを全教科にわたって送り込み、全国の先生方との切磋琢磨の機会に参加させて頂いております。(2024年度は第11回目の大会でした)

(7)開倫塾の教育の目的は、たとえ短期間であっても、開倫塾の塾生である間に、「自覚をもって学び」、「自分なりの効果の上がる学習方法」、「自分から進んで学ぶ力」を身につけることにより、塾生一人ひとりが、「多様な選択肢のある人生を歩むこと」、「正常に機能する社会の形成に貢献すること」を目指して頂きたいということです。

Q 3 : 「自己学習能力の育成」に向け、どのような指導に力を注いでいますか。

A : (1)「塾生ハンドブック」をほぼ毎年発行。具体的な指導を行っております。
(2)「開倫塾ニュース」を毎月発行。月ごとの具体的な指導を行っております。
(3)CR Tラジオ栃木放送「開倫塾の時間」で、社会人を含め「効果の上げる学習方法」を塾長が担当、具体的にお話しています。
○以上はすべて開倫塾のH.P.「塾長のページ」で公開。

Q 4 : 「学習の3段階理論」に基づき、どのような教育や授業をしていますか。

A : 学習を「理解」「定着」「応用」の3段階に分け、
(1)「理解」として、「うん、なるほど、これはこういうことだったのか」と「腑に落ちる」「よくわかる」授業を目指しています。意味のよくわからない語句は辞書で調べることを推奨しています。
(2)一度「理解」したことを「身に着ける(定着)」を重視し、「音読練習(暗唱)」「書き取り練習(暗記)」「計算・問題練習」の3つの練習を、「定着のための3大練習」と「定義」。「練習は不可能を可能にする」を合言葉に、「定着のための3大練習」を全塾生に推奨して

います。

○「自分のことばで言える(表現・説明できる)」、「深い理解」を目指しています。

(3)「応用」とは、「テストでよい点数が取れること」「社会で役立てること」と考えます。

①試験でよい点数が取れること。出題範囲が決まっている「定期テストは100点満点、入試や検定試験は合格点」を取ることを目指しています。

②開倫塾では、一度解いた問題の「誤答分析」と、一度解いた「問題」と「解答・解説」を、学校の教科書と同様、繰り返し学び「理解」「定着」することで得点力アップを推奨。

③「社会で役立てること」も「応用」と「定義」しています。

○開倫塾では、学校で学ぶすべての教科は、上級学年、上級学校ですべて役に立つだけでなく、社会に出て仕事や社会的活動、日常生活やよく生きる上で役に立つと考えます。学校の教科書、辞書や地図帳、年表や授業ノートなどは、決して処分しないで大切に保管し、一生かけて、死ぬまで学び続け、社会で役立てることを奨励しています。

Q 5 : 講師や教職員の育成・確保について、どのような取り組みに力を注いでいますか。

A : 開倫塾の先生の条件は、「声大きい(元気であること)」「教育熱心」「研究熱心」の3点です。

(1)どんなに優秀な方でも、声が聞こえない・元気がないのでは、先生は務まらないからです。

(2)この塾生をどうにかしてあげようという熱い心、執念・情熱も欠かせません。

(3)どんなベテランの先生も、授業ごとの「予習」「復習」「リフレクション」「レッスンプランの練り上げ」は欠かせません。

○自分なりの「教え方日本一に向けての研修」「青少年のメンタルヘルスの研修」「中学部の先生のための高校内容の研修」「やさしい日本語を用いた外国出身者の皆様への考え方の研修」など幅広い研修を行っています。

Q 6 : 18歳人口が減少していく中で、今後の塾経営の方向性をどのように考えていますか。

A : (1) 開倫塾日本語学校を設立。

(2)留学生以外に聴講生も。

(3)日本語教師を育成し、地域での日本語教師の担い手の育成を図る。

(4)駿台予備校様と提携「駿台ダイバース」を展開。

(5)ブロードバンド予備校様と提携。

(6)ベネッセ様と提携。B-studio(子ども英語教室)を展開。

(7)ベネッセ様と提携。E S T(English Speaking Training)を展開。

(8)広域通信制高校 学校法人田原学園 慶風高校様のサポート校開倫塾高等学院をスタート。

(9)開倫塾「学習型学童」を準備。

Q 7 : 最後一言どうぞ。

- A : (1)2024年1月から6月まで半年の出生数は35万人と、2024年には1年間で70万人の出生数となり、たとえ人口の1割に外国出身者に入ってもらいたとしても、今後、超少子化・超人手不足の日本になることが予測されます。
- (2)他方、「実業高校」と呼ばれ、現在は「専門高校」と呼ばれている高校では、以前は高校卒業後多くの生徒が就職していましたが、現在は、就職は減少、大半の生徒は高校卒業後に、大学または専門学校に進学するようになりました。
- (3)超人手不足社会の到来と、高卒者の大半が大学または専門学校に進学するという、2つの現実を前に、開倫塾はじめ、すべての学習塾がしなければならないことは何か。
- (4)中学3年生全員を高校部に継続させ、高等教育機関である大学や専門学校の教育・研究に耐えられるだけの「基礎力」を身につけさせること。
- (5)そして、大学・専門学校でしっかり学んだ後、超人手不足の地元を支える人材を育成することと確信します。
- (6)そこで、働く意味や喜び、職業意識を高めるキャリア教育と同時に、地元の良さ(文化や伝統、企業、産業)を知り、地元を愛する心を育む教育を小・中・高・大・専門学校とともに、学習塾としても積極的に行うべきと考えます。
- (7)一人ひとりの塾生が、地元の将来を支える地元人材であることをしっかり認識し、ていねいな教育を学習塾でも行うことを提案いたします。

以上

開倫塾の社会貢献活動

(1) 開倫ユネスコ協会 (2001 年設立、人間の安全保障の推進が基本理念)

- ① 「世界寺子屋運動一書き損じハガキによる募金活動」
- ② 「平和の鐘を鳴らそう運動」 毎年 8 月
「私の平和宣言」を読み上げ、身近にある音の鳴るものを平和を祈り鳴らす
* 市内の寺院で「平和の鐘を鳴らして頂く(鏝阿寺)」
- ③ 「文芸大賞」表彰式—毎年 10 月—
童話・小説・ポエム・詩・短歌・俳句・イラスト・書道・新聞・読書の各々のすぐれた作品・活動を表彰
- ④ 「ユネスコ世界哲学の日記念講演会」
毎年 11 月第 3 木曜日は「ユネスコ世界哲学の日」。開倫ユネスコ協会では「価値・意味・秩序、哲学なくしてユネスコなし、今、哲学しよう !!」をテーマに毎年記念講演会を実施
- ⑤ 栃木県、群馬県、茨城県、福島県の各県ドッジボール協会とともに、開倫ユネスコ杯ドッジボール選手権大会を毎年実施
2024 年 4 月は栃木県宇都宮市日環アリーナで国際親善大会を実施。2 日間で 2600 名が参加。
- ⑥ 開倫塾の各校舎で「開倫ユネスコ学校」の活動をユネスコ精神に基づき行っています。
- ⑦ 開倫日本語学校では、「ユネスコ学校」を開催、栃木県、足利市を中心に日本の文化伝統の理解と、足利花火大会はじめ、足利市内のイベントにボランティアとして参加。市民としての活動を少しずつ広げています。

(2) CRT ラジオ栃木放送『開倫塾の時間』林明夫の歩きながら考える

毎週土曜日午前 9:15 ~ 9:25

社会人を含め「効果の上がる学習方法」を具体的にお話しています。年に何回かは、ゲストをお招きしています。

○ 2024 年 3 月で 38 年目に入りました。

- (3) 開倫塾では、養護施設の子供たち(小・中・高校生)には(公的助成以外)費用なしで指導させて頂いております。
- (4) 栃木刑務所(栃木市にある女子刑務所)に、開倫塾のベテラン女性講師が出向き、受刑者に学校で学ぶ教科の指導を 20 年近く毎年シリーズで実施。
○ 塾長は毎年開講式で「効果の上がる学習方法」をテーマに講演
受講生の受刑者の再犯は今のところゼロとお聞きしています。
- (5) 足利市は知る人ぞ知る「論語と 5S」(整理・清掃・整頓・清潔・躰)活動の盛んな街。足利商工会議所が主催する「足利 5S 学校」に開倫塾も参加、「5S インストラクター」の資格取得とともに開倫塾全体で塾生の皆様とご一緒に「5S 活動」を展開。
○ 開倫塾日本語学校で学ぶ留学生にも「足利流 5S」活動を紹介。日本の企業や社会のよき伝統である「整理・清掃・整頓・清潔・躰」の文化をお伝えしています。
- (6) 塾長は、公益社団法人栃木県経済同友会、公益社団法人経済同友会(東京)、群馬経済同友会の会員として、学校で行われる「キャリア教育」として「働くとは何か、これからの社会に求められる能力とは何か、中学高校時代に身につけたほうがよいこと、学校の勉強は社会で役に立つのか」などのテーマで出張授業の講師として、毎月何回か参加。宇都宮大学工業研究科と作新学院大学客員教授を長年務めております。